

知的所有権の動向

最近の WIPO の動き (26)

世界知的所有権機関 (WIPO) 日本事務所*

1. はじめに

— 世界知的財産指標 (WIPI) 2022 の公表 —

WIPO の年次報告書の一つである World Intellectual Property Indicators (世界知的財産指標: WIPI) は、世界中の知的財産に関わる指標を集めたもの



世界知的財産指標 (WIPI) 2022

であり、その前年までの特許・意匠・商標等に係る各種統計データがまとめられている。2022 年 11 月 21 日に WIPI 2022 が公表されたので¹⁾、本稿ではそのデータの一部を紹介する。

2. WIPI 2022 の全体概要

WIPI 2022 によれば、知財出願の件数は、COVID-19 のパンデミックの真っ最中であった 2020 年も堅調であったが、2021 年はさらに増加傾向であった。

2021 年の世界全体の特許出願件数は約 340 万件で前年比 3.6% 増であり、アジア地域の特許庁で世界全体の 67.6% を占めている。2021 年の世界全体の商標出願件数も多く多くの国で増加を記録しており、世界全体の件数 (区分数) では前年比 5.5% 増の約 1,815 万件であった。これは、パンデミックを契機とした起業活動やベンチャーキャピタル

【表: 2020 年, 2021 年の特許出願, 商標出願, 意匠出願件数の推移】

知的財産権	2020 年	2021 年	成長率 (%) (2020 年 - 2021 年)
特許出願数	3,281,900	3,401,100	3.6
商標出願数 (区分数)	17,193,800	18,145,100	5.5
意匠出願数 (意匠数)	1,387,800	1,515,200	9.2

* WIPO の外部事務所の 1 つ。東京・霞が関に位置する。詳しくは、WIPO 日本事務所のウェブページを参照されたい:

<https://www.wipo.int/about-wipo/ja/offices/japan/>
また、WIPO や WIPO 日本事務所の主要な活動については、ニュースレター (四季報) にて定期配信中:
https://www3.wipo.int/newsletters/ja/#wipo_japan

取引の増加と相関していると考えられる。2021 年の世界の意匠出願件数（意匠数）は前年比 9.2% 増の約 152 万件と顕著な増加傾向であった。

3. 特許

(1) 各知財庁における出願（受理）件数

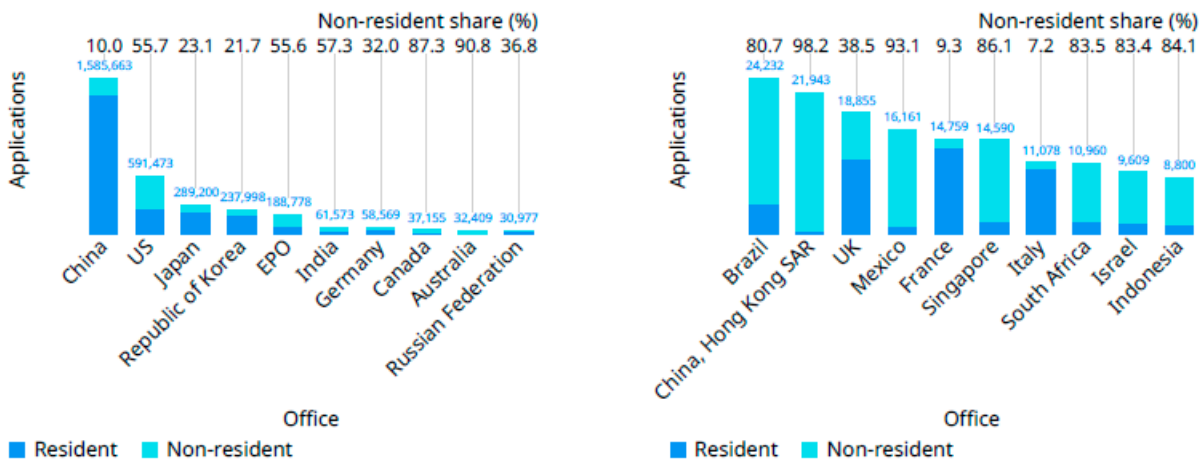
世界全体の特許出願件数は、2019 年に 10 年振りに減少したが、2020 年は増加に転じ、2021 年は COVID-19 パンデミック前にピークであった 2018 年の出願件数（約 330 万件）を上回り、過

去最高を記録した。この増加の主な要因として、中国において 2020 年よりも 88,504 件の大幅な出願増加があったことに加え、韓国 (+11,239 件) や欧州特許庁 (+8,432 件)、インド (+4,802 件)、南アフリカ (+4,272 件) などでも大幅な増加が見られていたことがあげられる。

出願件数上位国を個別に見ると、世界第 1 位の中国は約 159 万件に達し、対前年比 5.9% 増であった。第 2 位は米国 (591,473 件)、第 3 位は日本 (289,200 件)、第 4 位は韓国 (237,998 件)、第 5 位は欧州特許庁 (188,778 件) であり、上位 5 庁

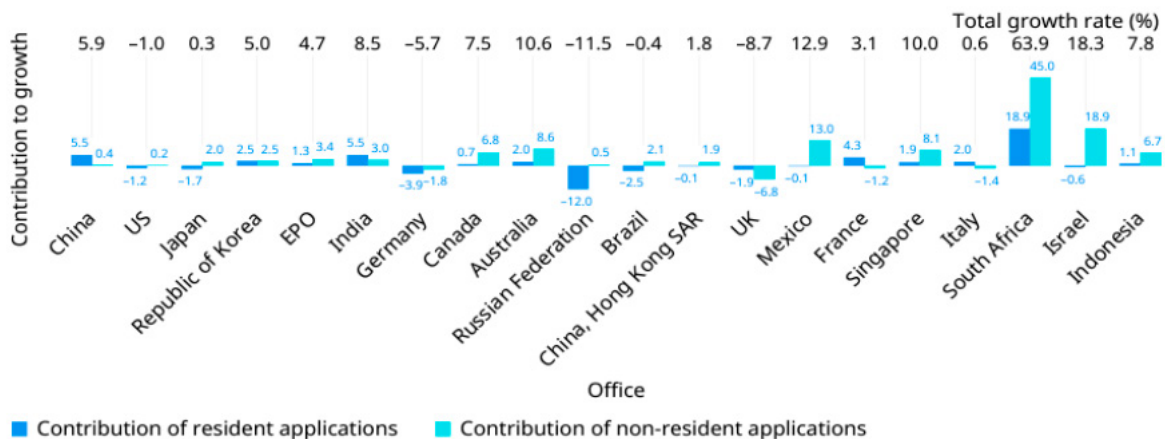
【2021 年の特許出願（受理）件数 上位国・地域知財庁トップ 20
（左図：1 - 10 位, 右図：11 - 20 位）】

A7. Patent applications at the top 20 offices, 2021



【2021 年の特許出願（受理）件数の対前年比と居住国・非居住国出願人による寄与率
上位国・地域知財庁トップ 20】

A8. Contribution of resident and non-resident applications to total growth for the top 20 offices, 2020-2021



のシェアは 85.1% となっていた。

2021 年の特許出願件数上位 20 の知財庁のうち、15 の知財庁において 2020 年より件数が上昇していた。これらのうち、特に、南アフリカ (+63.9%)、イスラエル (+18.3%)、メキシコ (+12.9%)、オーストラリア (+10.6%)、シンガポール (+10%) では前年比で二桁の伸びが見られ、いずれにおいても、非居住者の出願の増加が顕著であった。各国の自国内の出願人による出願件数による寄与を見ると、中国、韓国、インドでは、件数が前年より大きく伸びている一方、日本国特許庁では日本の出願人による出願件数は減少しており、米国やドイツも同様に自国出願人による出願は減少傾向であった。

(2) 各国出願人による非居住国（自国外）への出願件数

各国（居住国）出願人による非居住国（自国外）への特許出願に着目すると、2021 年の非居住国への出願は、米国出願人が最も多く（247,609 件）、次いで日本（190,399 件）、中国（111,905 件）、ドイツ（99,899 件）、韓国（81,272 件）の順であったが、中国出願人の 2021 年の海外出願は、対前年比で 16.2% 増と大幅な増加であった。米国も対前年比 9.3% 増、韓国は 1.4% 増であった一方、日本出願人の海外出願は 2 年連続で減少傾向であった。フランス（42,051 件）、スイス（38,512 件）、英国（36,393 件）、オランダ（24,122 件）、カナダ（21,794 件）も非居住国への出願件数のトップ 10

に入っている。

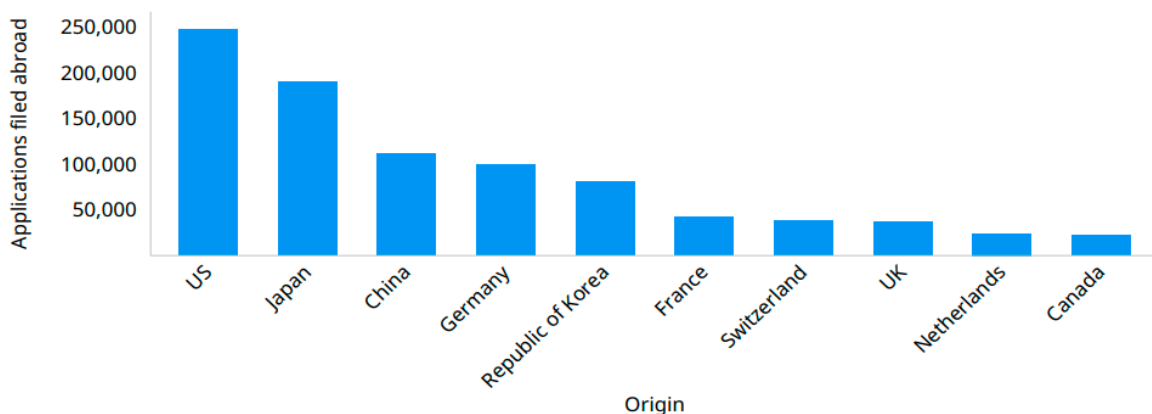
(3) 技術分野別の出願件数

技術分野別²⁾で見ると、2020 年に出願された特許出願の公開出願において、最も多い技術分野はコンピュータ技術であり、世界全体の 10.2% を占めていた。次いで、電気機械（6.5%）、計測（5.7%）、デジタル通信（5.1%）、医療技術（5%）の順であった。この 5 分野は 2012 年以降、順位の変動はあるものの、技術分野別のランキング上位 5 分野を占めている。2010 年から 2020 年の増加率が高かったのは、コンピュータ技術（+9.6%）と工作機械（+9.1%）であった。一方、医薬品分野に関連する出願は、2016 年をピークに前年比で減少しており、2016 年の 108,100 件から 2020 年には 93,000 件に減少していた。

2018 年から 2020 年の期間における出願人居住国別での動向を見ると、中国、韓国、英国、米国ではコンピュータ技術の出願が最も多く、日本は電気機械、フランスとドイツは輸送、スイスは医薬品、オランダとロシアは医療技術での出願が最も多い。同時期中所得国の出願人の動向を見ると、インドとメキシコが医薬品、ブラジルがその他の特殊機械、南アフリカが土木、トルコが輸送の各技術分野の出願件数が最も多くなっていた。また、世界全体のエネルギー関連（太陽光、燃料電池、風力、地熱、水力）の特許出願数は、2006 年の約 24,600 件から 2012 年の 47,400 件へとほ

【2021 年の非居住国への特許出願件数 上位出願人国 上位トップ 10】

1.4. Patent applications filed abroad by the top 10 origins, 2021



倍増したが、それ以降は減少傾向となっており、2020 年は 39,000 件 (対前年 1,500 件減) であった。

4. 商標

(1) 各知財庁における商標出願 (受理) 件数 (区分数)

2021 年に全世界で出願された商標出願 (区分数) を知財庁別で見ると、中国の区分数が約 950 万件で第 1 位であり、第 2 位が米国 (899,678 件) であった。中国の出願件数 (区分数) は 2007 年には米国の 2 倍弱であったものが、2021 年には 11 倍近くまで伸びているが、これは主に、中国の居住者による国内での商標出願が多いことに起因する。中米に次いで、欧州 (EUIPO: 497,542 件)、インド (488,526 件)、英国 (450,815 件) が続いており、全世界の商標出願の約 65% がこの 5 つの知財庁に集中している。

上位 20 の知財庁のうち 18 の知財庁で 2021 年の商標出願件数が前年よりも増加しており、そのうち 10 の知財庁で二桁の増加率を記録していた。特に増加率が大きかったのは、英国 (+61.8%)、ブラジル (+32.3%)、メキシコ (+22.7%)、カナダ (+19.5%)、トルコ (+19.4%)、イタリア (+18.5%)、オーストラリア (+16.4%) であった。英国の出願件数の急増は、Brexit の影響により英国で権利化

するためには、EUIPO とは別に英国知的財産庁 (UKIPO) にも出願する必要が生じた関係で、主に自国外からの出願が増加したことが要因である。一方、2021 年に前年より減少した知財庁は、日本 (-13.5%) とロシア (-0.6%) であった。

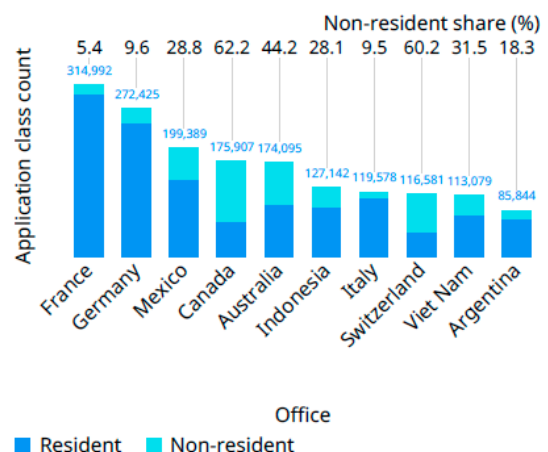
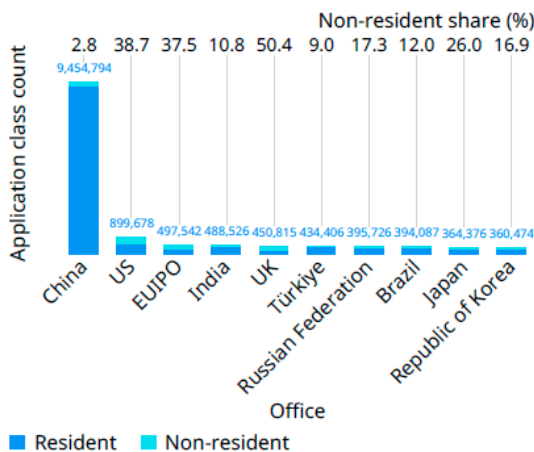
ブラジル、インド、イタリア、メキシコ、トルコが対前年比 15% 以上増加した要因は、居住者出願の増加が要因である一方、オーストラリア、カナダ、スイス、英国の 15% 以上の増加率は、非居住者出願が大きな割合を占めていた。日本とロシアで出願件数が減少していたが、これは、主に居住者出願の減少に起因するものであった。

非居住者による商標出願の伸びが顕著になっており、出願件数の上位 20 の知財庁で見ると、15 の知財庁で非居住者の増加率が居住者の増加率を上回っている。世界全体に占める非居住者出願の割合は、2007 年の 31.9% から 2021 年の 16% へと約 16 ポイント減少しているものの、中国を除くと、この間、非居住者出願の割合は 4 ポイントしか低下していない。特に、2021 年に非居住者による出願比率が高いのは、出願上位 20 の知財庁では、オーストラリア (44.2%)、カナダ (62.2%)、EUIPO (37.5%)、スイス (60.2%)、英国 (50.4%)、米国 (38.7%) である。一方、非居住者による出願割合が低いのは、中国 (2.8%)、フランス (5.4%)、トルコ (9%) である。なお、フランスや、ドイ

【2021 年における、商標出願 (受理) 区分数の上位国・地域知財庁トップ 20

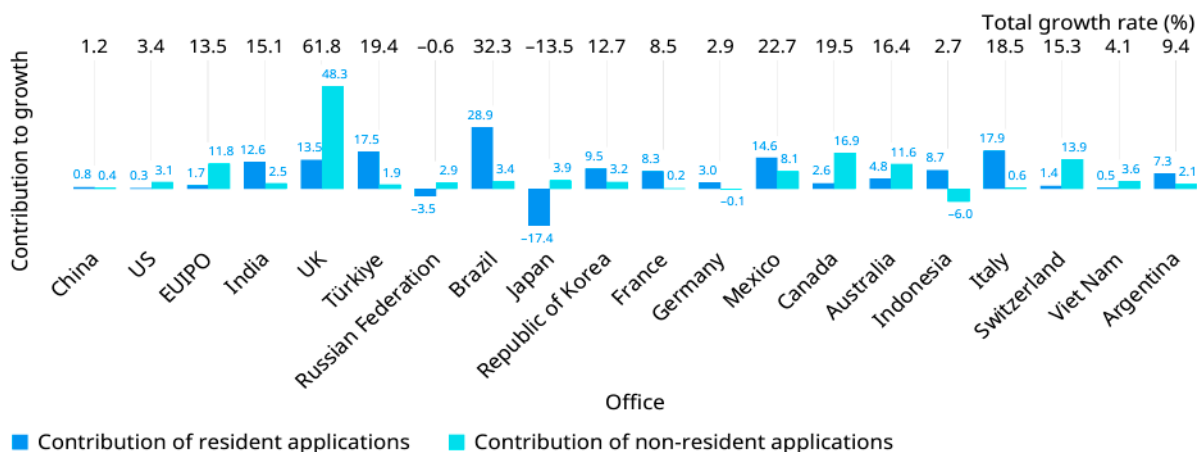
(左図: 1-10 位, 右図: 11-20 位)】

B9. Trademark application class counts for the top 20 offices, 2021



【2021 年の商標出願（受理）件数（区分数）の対前年比と居住国・非居住国出願人による寄与率
上位国・地域知財庁トップ 20】

B10. Contribution of resident and non-resident application class counts to total growth for the top 20 offices, 2020-2021



ツ (9.6%)、イタリア (9.5%) などの EU 加盟国の知財庁の非居住者比率が低いのは、非居住者の多くが EUIPO を通じて EU 加盟国に保護を申請しているためであると考えられる。

中低所得国の出願件数を見ると、ウクライナ (71,234 件)、タイ (68,103 件)、フィリピン (64,946 件)、コロンビア (55,606 件) では商標出願件数が比較的多く、ドミニカ共和国 (+20.5%)、モンゴル (+30.2%)、モザンビーク (+27.7%)、パキスタン (+26.5%)、ウズベキスタン (+20.9%) が対前年比 20% を超える伸びを示していた。

(2) 分類別の商標出願件数（非居住国への商標出願）

2021 年の分類別の商標出願件数（非居住国への商標出願、ニュース分類に基づく）を見ると、科学、写真、測定器、記録装置、コンピュータ、ソフトウェアを含む分類（第 9 類）が最も多く 11.0% を占めていた。次いで、広告、経営管理、事業管理、オフィス事務を含む分類（第 35 類；7.3%）、科学技術サービス、コンピュータのハードウェアとソフトウェアの設計・開発（第 42 類；6.0%）、医薬品製剤、ベビーフード、ヒトや動物用の栄養補助食品、消毒剤、殺菌剤、除草剤を含む分類（第 5 類；5.3%）となっている。

5. 意匠

(1) 各知財庁における意匠出願（受理）件数（意匠数）

2021 年に世界全体で、約 150 万件の意匠数を含む出願が行われた。これは対前年比 9.2% の増加であり、2013 年以降で最も大きな増加率であった。全体では、自国居住者による出願が 5.6% 増加し、中国、インド、トルコ、英国の居住者による出願が大きかった。一方、非居住者出願に含まれる意匠数は、対前年比 29.4% と大幅な増加であった。今回のこのような増加の主な理由は、COVID-19 の大流行による世界的な封じ込め政策により、自国外での出願活動が急速に縮小した後（2020 年は -5.5%）2021 年は急回復したことで、英国が EU を離脱してから最初の年であったこと、の 2 つが主な要因であると考えられる。

知財庁別で見ると、中国は 2021 年の出願件数（意匠数）は 805,710 件で、世界全体の半数以上 (53.2%) を占めていた。次いで、EUIPO (117,049 件)、英国 (74,781 件)、韓国 (69,248 件)、トルコ (65,924 件) の順となっている。英国は、2020 年に比べて 2.3 倍の意匠を出願で受け、1 年で世界ランキングを 4 つ上げ、2021 年には出願件数（意匠数）で世界第 3 位となった。

また、上位 20 の知財庁の合計で、世界全体の出願に含まれる全意匠数の 93.7% を占めており、このうち、意匠数が増加したのは 16 の知財庁であり、そのうち 9 の知財庁は 2 桁または 3 桁の増加となっていた。最も伸びたのは英国 (+128.5%) であり、インド (+67.6%)、メキシコ (+38.4%) が大幅な増加であった。一方、減少が大きかったのは、ドイツ (-9%)、タイ (-2.3%)、韓国 (-2.2%) であった。

上位 20 の知財庁の半数以上の 11 の知財庁において、居住者出願および非居住者出願に含まれ

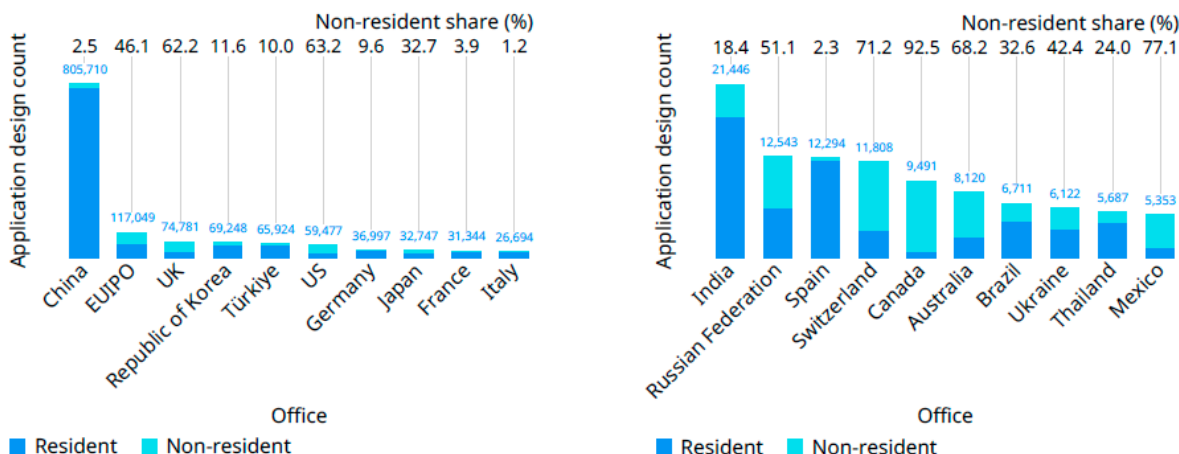
る意匠の件数がともに増加していた。また、インド、ロシア、トルコ、英国では、居住者による出願増加が顕著であり、カナダ、メキシコ、英国では、非居住者による出願増加が顕著であった。一方、ドイツとスペインは、居住者出願、非居住者出願ともに減少した。

(2) 産業分野別の出願数

2021 年の世界の意匠出願を分野別³⁾に見ると、家具・家庭用品 (17.8%)、繊維・同付属品 (14.7

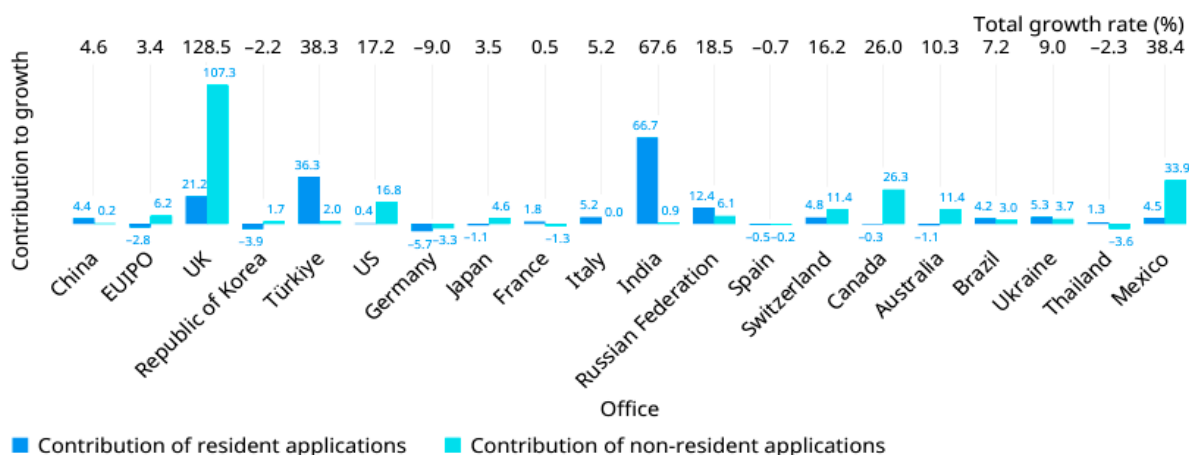
【2021 年における、意匠出願 (受理) 意匠数の上位国・地域知財庁トップ 20 (左図：1-10 位, 右図：11-20 位)】

C9. Application design counts for the top 20 offices, 2021

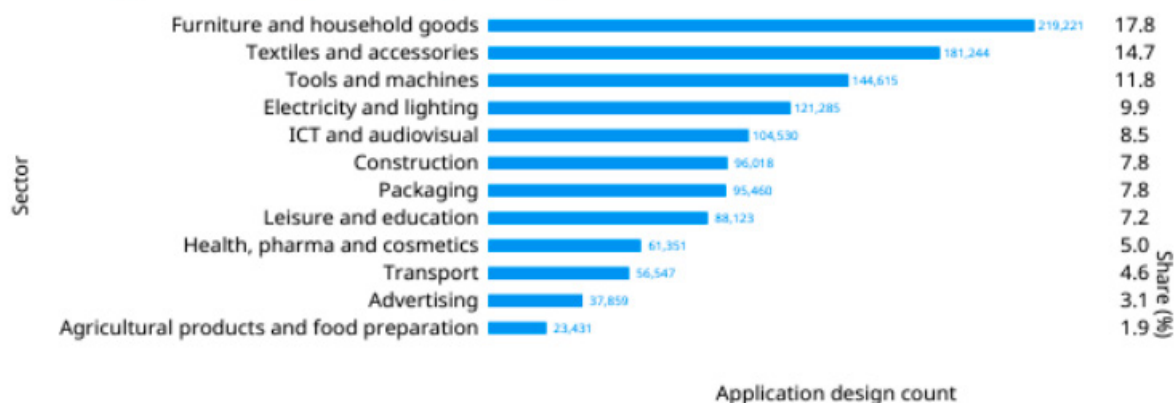


【2021 年の意匠出願 (受理) 件数 (意匠数) の対前年比と居住国・非居住国出願人による寄与率 上位国・地域知財庁トップ 20】

C10. Contribution of resident and non-resident application design counts to total growth for the top 20 offices, 2020-2021



C23. Application design counts by industry sector, 2021



%), 工具・機械 (11.8%), 電気・照明 (9.9%) の各分野が大きな割合を占めており, この 4 分野を合わせると過半数 (54.2%) を占めていた。

知財庁別の傾向を見ると, トルコ (26.9%), 中国 (19.2%), オーストラリア (13.1%), カナダ (12.5%) では家具・家庭用品分野が最も大きな割合を占めていた。ドイツ (24.7%), インド (23.2%), イギリス (16.9%), EUIPO (16.1%), ロシア (14.1%) では繊維製品・アクセサリ分野, 韓国 (22%) では, 機械分野が最も大きな割合であった。

本稿では, WIPI 2022 に基づき, その掲載データを引用しながら, 特許, 商標, 意匠の統計データの一部をご紹介させていただいた。WIPI 2022 には, 本稿で示したデータ以外にも, GDP あたりの各国居住者による特許・商標・意匠出願件数の分析や, 各国の詳細分析データ, 特許に関してはパテントファミリー毎の分析や各知財庁の審査状況や特許審査ハイウェイ (PPH) に関する分析結果なども掲載され, さらに, 特許・商標・意匠以外の知的財産 (実用新案, 植物品種保護, 地理的表示, クリエイティブ産業) に関する最新の統計データも掲載されている。ぜひご参照いただければ幸いです。

(注)

- 1) WIPI 2022 公表に関するプレスリリース (日本語) : https://www.wipo.int/pressroom/ja/articles/2022/article_0013.html
- 2) 技術分野は, WIPO の国際特許分類 (IPC) 技術コンコーダンス表に基づいた 35 に分類したものであるが, 出願から公開までに時間を要するため, WIPI 2022 では 2020 年に特許出願されたもので技術分野別の件数を算出している。
- 3) 32 のロカルノ分類を 12 の産業分野に分類して分析。

(原稿受領日 2022 年 12 月 2 日)